

◆研究テーマ・内容

e スクールシステム（コンテンツ・教育コーチ）の国際展開に関する研究

早稲田大学人間科学部は、2003年4月に、日本初のインターネットを利用した学習のみで卒業ができる通信教育課程（e スクール）を開設した。これまで卒業生約 1,400 名（2019 年 3 月現在）を輩出し、通信教育課程として安定した評価を得ている。

学生の入学の目的が異なるため卒業率の比較を単純にできない部分もあるが、e スクールでは入学者に対する平均卒業率は約 60%弱と高い。これを支えている仕組みの一つが、「教育コーチ」と呼ばれるオンラインでの学習支援者（e メンター）である。e スクールで開講されている科目には、約 30 名（1 クラス）の履修者に対して、教育コーチが個々の学生のサポートを担当している。

本研究では、e スクールのような通信教育課程での学習支援をより高度化するため、また外国学生の受講を視野に入れた支援を行うため、以下 4 つの領域の研究を行ってきた。

第一は、マイクロティーチングの知見を踏まえた、低コストかつ、国際展開が可能な 5~15 分の短時間コンテンツ作成ノウハウの蓄積である。近年は、マイクロラーニングと呼ばれる 1~5 分程度のコンテンツも普及しており、教員だけでなく、教育コーチも作成に携わるような手法を開発・評価している。

第二は、90 分の授業映像を要約し、履修者に提供する「ダイジェスト映像」、あるいは「リフレクションムービー」と呼ばれる短時間動画の作成ノウハウの蓄積である。ダイジェスト映像を効果的に作成するため、授業映像を Deep Learning を用いた機械学習を用いて分析するシステムを開発し、評価している。

第三は、上記のような短時間コンテンツに対する字幕付きコンテンツの開発である。授業コンテンツでは映画等と異なる字幕ノウハウが必要とされる。字幕を用いた効果的なコンテンツ開発を、上述のマイクロラーニングやリフレクションムービー開発と連携して行ってきた。

第四は、教育コーチ育成システムの国際展開の可能性の検討である。既に社会人学生の多様性に対応した研修プログラムを開発し、実践してきたが、異文化対応ができるプログラムを構築し、評価を行っている。学生間のピアレビューと教育コーチによるサポートの役割についての検討も進めている。

◆担当教員：尾澤 重知 准教授

<主な著書>

「内省支援が必要な中堅社員の内省プロセスの特徴の質的研究」（廣松ちあき・尾澤重知 2019）、「各授業回と学期末の自己評価の「ずれ」に着目した学習内容振り返り手法の開発と評価」（森裕生らとの共著 2018）など。いずれも日本教育工学会論文誌に掲載。

<社会的活動>

一般社団法人 日本イーコマース学会 学会誌編集委員